

BAL ガソリン携行缶 5L 10L 20L

No.1651 No.1652 No.1653

取扱説明書

ご使用になる前に

- ご使用になる前に必ず本書をよく読み、記載内容および使用方法を十分に理解したうえで使用してください。
- ご使用になる前にガソリン携行缶の内部にサビが発生していないことを確認してください。
- 長期間使用しなかった場合は、ご使用になる前にガソリン携行缶本体やパッキン類に異常がないか各部品を点検して異常がないことを確認してから使用してください。パッキン類が劣化した状態で使用すると内容物が漏れる危険性がありますので、新品のパッキンと交換してください。
- 誤った使用方法や、警告、注意事項を遵守しなかったことにより発生した損害およびケガや、火災、地震、水害等の天変地異や公害、塩害による損害についてはいかなる責任も負いかねます。

安全上のご注意



- ガソリンやガソリンが気化して発生したガスは引火、爆発する危険性があります。火気や静電気には十分に注意してください。
- 法令によりセルフ式のガソリンスタンドで、お客様ご自身で給油することはできません。従業員の方に給油を依頼してください。
- 給油口キャップやガス抜き調節ネジ、給油ノズルを点検し、異常がないことを確認してください。パッキンが劣化（ひび割れ・硬化など）している場合は新品と交換してください。（交換用のパッキンはNo.1670パッキンセット[レッド]を使用してください。他社のパッキンなどを使用した場合、漏れの原因になります。）

- 本製品の分解、改造はしないでください。
- 携行缶本体にサビや変形、破損等がある場合は使用しないでください。
- 規定容量以上の内容物を入れないでください。
- 内容物の有無に関わらず、高温になる場所や、直射日光が当たる場所で使用しないでください。
- 落下など強い衝撃が加わった場合は、内容物の漏れや、各部のゆるみ、変形、破損がないか確認してください。



使用上のご注意



- 給油後は内容物に応じて付属の内容物表示ラベルを目立つ場所に貼り、内容物の入れ間違いに注意してください。
- 内容物が入っている状態で給油口キャップをゆるめた場合、気化した内容物が噴き出す可能性があります。必ず先にガス抜き調節ネジをゆるめてガスを抜き、内部の圧力を下げてから給油口キャップをゆるめてください。

- ガソリン、軽油、灯油、混合油以外のものは入れないでください。携行缶本体のサビやパッキン類の劣化の原因になります。
- 給油口キャップの開閉時や金具付き給油ノズルの取り付け時に指などを挟まないように注意してください。
- 給油後は給油口キャップとガス抜き調節ネジを確実にしめつけた後、携行缶を傾けて内容物の漏れがないことを確認してください。



- 屋内や、車内、周囲を汚すおそれがある場所で給油する際は、万が一内容物がこぼれても周辺が汚れないように、また人体や周辺に危険を及ぼさない処置をしたうえで給油してください。
- 構造上、使い切った後に内容物が若干残る場合があります。この場合、残った内容物はウエスなどで拭き取ってください。
- 使用後は汚れやこぼれた内容物などを拭き取ってから保管してください。
- 給油口の内侧で指などを切らないように注意してください。

給油時のご注意



- 給油口キャップを外す時は給油口が上向きになるように平らな場所に置き、内容物がこぼれないことを確認してください。
- 給油対象物に給油する際は給油ノズル、およびノズル取り付け金具がゆるみなく取り付けられていることを確認してください。
- 自動車などの給油対象物に給油する際は必ず車両のエンジンを停止した状態で行ってください。



保管・運搬中のご注意

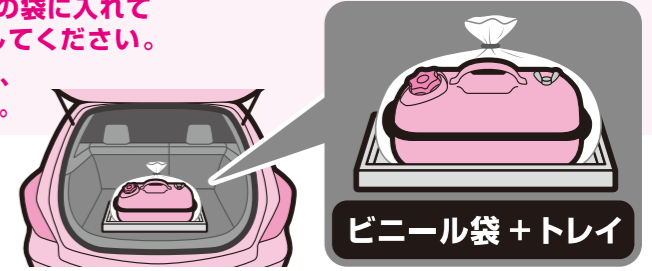


- 内容物の有無に関わらず、高温、直射日光が当たる場所や湿度の高い場所、転倒しやすい場所や密閉された空間（室内、車内）に保管しないでください。



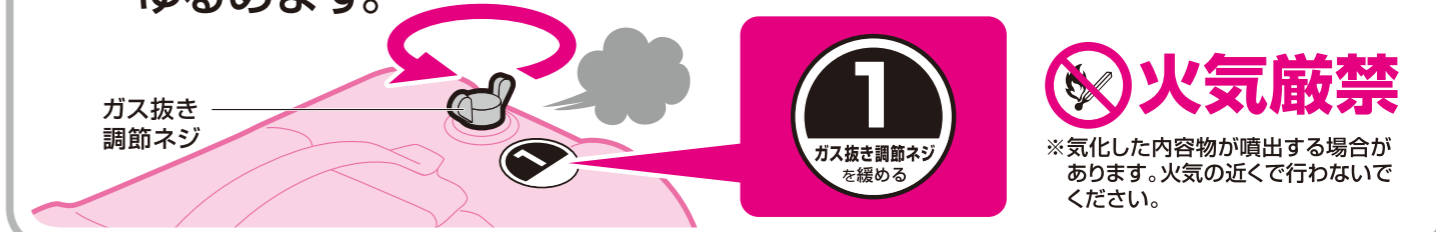
- 自動車などに搭載して移動する際は必ずポリエチレン製の袋に入れてトレイなどの上に置き、運搬中に動かないように固定してください。
- 内容物が入っている場合は、漏れ防止のため、給油口キャップ、ガス抜き調節ネジを確実にしめて、平らな場所に保管してください。

- 内容物がない状態で長期間使用しない場合は給油口キャップとガス抜き調節ネジをゆるめて保管してください。
- 内容物を入れたまま、長期保管しないでください。内部のサビの原因になります。
- 長期保管した内容物は劣化しており、給油対象物に悪影響を与えるおそれがありますので使用しないでください。

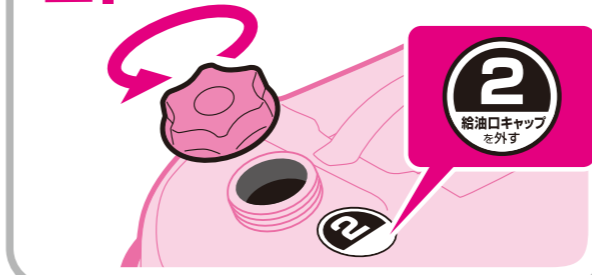


使い方

1. ガス抜き調節ネジをゆるめます。
2. 給油口キャップを取り外します。
3. 給油口に金具付き給油ノズルを取り付けます。
4. ガス抜き調節ネジを一度しめつけてください。
5. 給油対象物に給油してください。
6. 給油完了後



2. 給油口キャップを取り外します。



3. 給油口に金具付き給油ノズルを取り付けます。

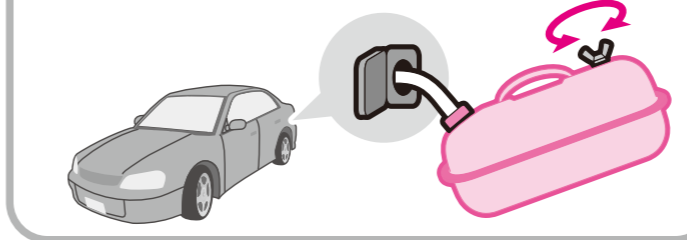


4. ガス抜き調節ネジを一度しめつけてください。



5. 給油対象物に給油してください。

※給油中にガス抜き調節ネジをゆるめて、流量を調整してください。
※内容物は極力使い切ってください。



6. 給油完了後

- 給油口から金具付き給油ノズルを取り外してください。
- 給油口キャップを取り付けてください。※ゆるみがないようにしめつけてください。
- ガス抜き調節ネジをしめつけてください。



補修部品 (別売) 1年を目安に取り替えてください。

全種共通					5・10L用	20L用
No.1668 給油口キャップ (パッキン付)	No.1662 ガス抜き調節ネジ (パッキン付)	No.1669 ノズル取り付け金具 (レッド)	No.1664 給油ノズル (パッキン付)	No.1670 パッキンセット (レッド)	No.1666 5・10Lプロテクター (No.1651・1652用)	No.1667 20Lプロテクター (No.1653用)

裏面も必ずご確認ください。

重要

ガソリンは、揮発性の強い危険物です。 下記の要綱を必ず守ってください。

下記をよくお読みになりご使用ください。

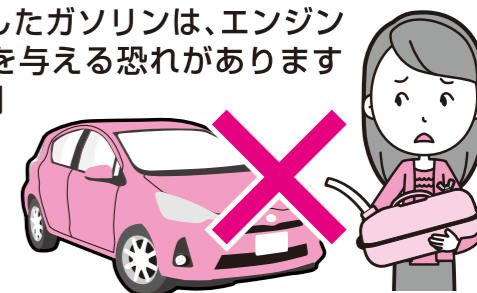
パッキン、給油口キャップ、ガス抜き調節ネジ、給油ノズル、本体に**損傷**、内部に**錆び(サビ)**がないかを確認してください。記載内容を無視して誤った取り扱いをすると、**ガソリン漏れなどの危険があります。**

ガソリンの危険性について

ガソリンは気温が-40℃でも気化し、小さな火源でも引火し、爆発的に燃焼する物質です(軽油は+40℃)。

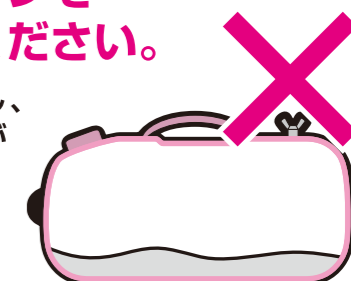
ガソリンも劣化します。

長期保管したガソリンは、エンジンに悪影響を与える恐れがありますので、使用しないでください。

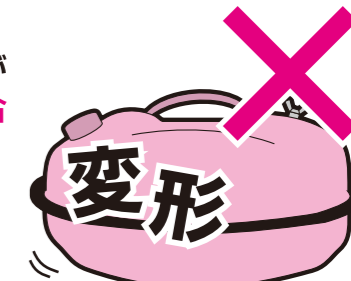


少量のガソリンを残さないでください。

ガソリンが気化し、内圧の変化で缶が変形、亀裂が入る恐れがあります。



内圧の変化等でガソリン携行缶が変形している場合は、使用を中止してください。



適時ガス抜きを行ってください。

揮発性が高いため、内圧の変化でガソリン携行缶に変形・亀裂が入る恐れがあります。適時、ガス抜き調節ネジをゆるめ、圧力を調節してください。

ガソリンにも水分は含まれています。

ガソリンの長期保管は缶の内部がサビ、損傷の原因になり、缶が使用できなくなります。



A ガソリン携行缶に給油するとき

1 給油前に、パッキン・キャップ・ガス抜き調節ネジ・給油ノズル・本体に損傷、内部にサビ・異常がないか確認してください。

※内部が錆びているときは、使用を中止してください。



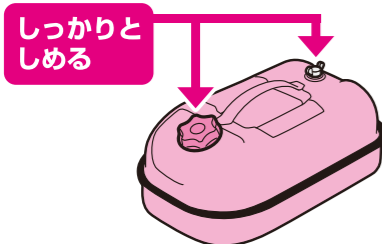
2 従業員のいる通常のガソリンスタンドで給油してください。

※静電気にはご注意ください。

注意 セルフスタンドでは給油することができません。法律で禁止されています。



3 給油後は、キャップ・ガス抜き調節ネジをしっかりとしめて、漏れがないか確認してください。



注意 給油量は、規定容量以内で給油してください。

注意 給油後は、中に何が入っているか誰が見ても判るように、付属のシール(ガソリン・軽油・灯油等)を目立つところに貼ってください。



B 運搬または、運搬後保管するとき

1 車載して運搬する場合は、必ずポリ袋に入れ、トレイの上に載せてください。

※荷物内で移動しないよう、しっかりと固定してください。

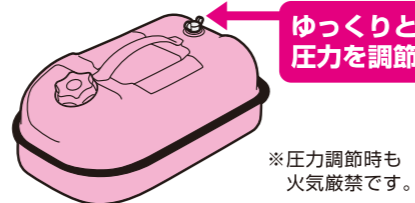


2 安全で、傾きのない平らな場所で保管してください。

注意 直射日光が当たる場所、高温になる場所、雨雪が当たる場所、湿気が多い場所等はガソリンの揮発や缶本体のサビ等につながり大変危険ですので避けてください。



3 ガソリンは揮発性が高いため、内圧の変化でガソリン携行缶に変形・亀裂が入る恐れがあります。適時、ガス抜き調節ネジをゆるめ、圧力を調節してください。



長期保管しないでください。

注意 ・ガソリンも劣化します。長期保管したガソリンはエンジンに悪影響を及ぼす恐れがありますので、使用しないでください。

・ガソリンにも水分が含まれています。長期保管をするとガソリン携行缶のサビの原因になります。錆びている場合は、使用を中止してください。



C ガソリン携行缶からお車や発電機などに給油するとき

(ウエス、手袋を準備しましょう)

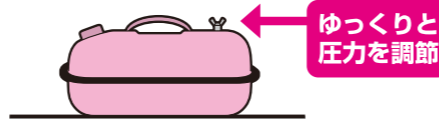
1 ガソリンは非常に危険な液体です。給油前に周囲の安全を必ず確認してください。給油されるお車、発電機などのエンジンを切ってください。特に発電機や草刈り機などはエンジンを冷ましてください。

※静電気にはご注意ください。



2 傾きのない平らな地面に置き、必ずガス抜き調節ネジで内部の圧力を調節してください。

注意 内部の圧力を調節せずに給油キャップを開けると中身が噴き出る恐れがあり非常に危険です。必ず圧力を調節してください。



3 ゆっくりとキャップをはずし、給油ノズルを取り付け、しっかりとめてください。こぼしたり、人体に付着しないよう注意深く、慎重に給油してください。



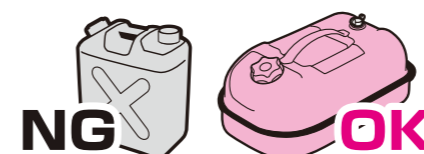
注意 給油後はウエスなどできれいにふき取ってください。ガソリン携行缶内にガソリンが残る場合は、キャップ・ガス抜き調節ネジをしっかりと確実にしめてください。

※空の状態でも保管する場合は、パッキン劣化を防ぐため、少しキャップをゆるめてください。



ガソリン携行缶の安全で正しい使いかた

1 灯油用ポリ容器にガソリンを入れてはいけません。



ガソリン容器(携行缶)は、消防法により金属製容器であることなどの規格が定められており、ガソリン用として性能試験をクリアした容器のみ使用可能です。

2 ガソリンは、-40℃でも気化し、引火、爆発の危険性があります。



ガソリンはマイナス40℃でも気化する性質があるため、一定期間の保管や、乗用車の室内やトランクに積んで運搬する場合は、窓を開け換気して運転してください。

3 セルフガソリンスタンドでは利用客が自らガソリンを容器へ詰め替えることはできません。



セルフ方式の場合は従業員に依頼する、もしくはセルフ方式以外のガソリンスタンドにて購入してください。

4 ガソリンの容器への詰め替えや保管時の注意、取り扱いについて



ガソリンは引火性が極めて高い物質であり、取り扱いを誤ると非常に危険です。ガソリンの詰め替え、保管時には、容器製品の「取扱説明書」をよくお読みになり、正しくお使いください。